

平成 30 年度 学校経営評価

学校番号	19	学校名	天竜特別支援学校	校長名	岩 附 祥 子
------	----	-----	----------	-----	---------

A…十分達成できた。B…おおむねできた。C…あまり達成できなかった。D…ほとんど達成できなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○と課題・	
ア	児童生徒理解の上に立った、人を大切にす授業実践と生徒指導、安全管理。	各研修会を児童生徒理解と授業作りに役立てたと答える教員 100%	教員アンケート 98.2%	A	○各学部の事例検討研修で児童生徒の実態や課題の捉え方、支援について共通理解をし、指導に役立てた。 ○外部講師の講演を聴いて、自立活動の指導内容を改善した。 ・教員研修を研修課、教育支援課が調整をして効果的な研修となるよう計画を立てていく。 ・新学習指導要領に示されている自立活動の実態把握の流れ図を参考にし、実態把握をしていく。	
		児童生徒の配慮事項に対する手立てを教員間で共有し実践することで重大事故 0 ヒヤリハットの情報共有により再発防止を意識できたと答える教員 100%	教員アンケートで安全に配慮できたと答える教員 100% 重大事故 0 教員アンケート 98.3%		A	○職員会議毎に児童生徒のアレルギー等の配慮事項を伝達し、児童生徒理解が深まった。 ・全職員で共有するための説明の仕方や配布資料に工夫が必要である。 ○ヒヤリハットを朝の打ち合わせで報告したり掲示板に情報を提供したりすることで、意識が高まった。 ・情報共有をスムーズに行うために情報提供の仕方を改善していく。
		情報モラルに対する理解が深まったと答える児童生徒 100%	児童生徒アンケート 100%。			A
	地震対応行動(避難、保護、引渡し)の確立。	実際に即した訓練ができた教員 100% 学校再開計画の検討と確立。	教員アンケート 91%。 再開計画の作成の骨子を作成した。	A	○新しい取り組み(厚生会への3次避難)を取り入れたり、想定を変えた訓練を実施したりした。想定に合わせた対応を考える機会となった。 ・スムーズに伝達できる報告方法や2次避難の基本的な対応を再確認したい。	

イ	短期在籍児童生徒及び未学習の児童生徒への学習指導と保護者への支援体制の充実。	未学習に対応した単元計画の作成と実践ができた教員 100%	教員アンケート 94%	B	○児童生徒の未学習と発達段階に対応した活動や支援を授業で実践することができた。 ・新学習指導要領で示されている主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善を目指し、「解決したい課題や問い」の質を高める研修を実施したい。
		学習に対する意欲や興味が高まったと答える児童生徒 100%	児童生徒アンケート 小学部 68% 中学部 22% 高等部 57%	C	○学びの特性を生かした支援を行うことで、児童生徒の学習への意欲や興味を高めることにつながった。 ・児童生徒の自己評価と教員アンケートとでは差が大きいため、学習に対する意欲や興味の高まりの検証方法を考える必要がある。
		ICT 機器の活用により学習効果が高まったと答える教員 95%以上。	教員アンケート 98.1%	A	○ICT 機器の研修会により、教員の活用技術の向上を図ることができた。 ・ネットワーク環境を今以上に向上させる必要がある。
		ICT 機器の活用により児童生徒の授業への参加率の増加。	児童生徒が意欲的に授業に参加する姿を具体的に挙げることができた教員が3分の2以上いた。	B	○ノートパソコンやタブレットの管理や環境整備を的確に行うことで、教員も児童生徒も扱いやすくなり ICT 機器の活用が増えた。 ・遠隔操作を円滑に行えるようにしていけるとよい。
ウ	豊かな表現力を引き出す重度重複障害児童生徒への教育の充実。	事例検討会から得た指導目標や内容を実践できた教員 100%	教員アンケート 100%	A	○自立活動実態表を基に事例検討会を行い、快の表出や学びの特性の見立てに役立てた。 ○教材教具研修と支援方法研修を4回実施し、訪問担当教員で共有することにより個々の実態に応じた指導、教材の工夫ができた。 ・事例検討会での学びを実践に生かすために早い時期の実施を検討したい。
		指導法や教材教具の工夫により児童生徒の表出を引き出すことができた教員 100%	教員アンケート 100%	A	
エ	個別の教育支援計画を根拠とした連携体制の確立。	転入学前の各機関における支援内容を把握し、在籍中、転出後の役割分担を明記した個別の教育支援計画を作成した教員 100%	作成した教員 100% (小・中学部)	A	○学校カンファレンスや移行支援等で提示し、原籍校と役割分担内容を確認することができた。 ・原籍校の役割を明確にするために転入からフォローアップまでのタイムスケジュール（原籍校用）を作成する。

		進路や関係機関等に関する理解や知識が向上したと答える教員100%	教員アンケート92.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の進路先（企業、通信制高校など）を見学先にしたことで、進路指導に役立てることができた。</li> <li>○職員研修ではハローワークの職員を招聘したことで、最新の情報を得ることができた。</li> <li>・実施日を調整し、参加者増やすことが必要である。</li> </ul>
オ	みゆうの丘協議会と連携した、特色と魅力のある学校づくり。	（高）厚生会、病院での学習、実習年間30回以上。 （小中）みゆうの丘の資源を活用した学習の実施5回以上	小学部 12回 中学部 6回 高等部 30回以上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みゆうの丘の資源活用は、児童生徒にとって安心できる場であり、校外での体験活動で主体的な姿がみられた。</li> <li>・教科等の目標を達成できるように年間指導計画を見直し、計画的にみゆうの丘の資源を活用していく。</li> </ul>
		「みゆうの丘協議会」の実践をまとめ外部に発信する。	外部発信までには至らなかった。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成22年度からの協議会議事録を集め、協議会の発足理由や協議内容を整理することができた。</li> <li>・次年度以降あゆみをまとめていく。</li> </ul>
	高等部入学選考のあり方の検討と試行へのみちすじづくり。	高等部のあり方についての検討を進め、試案を作成する。	高等部の在り方について企画会で検討したが試行までには至っていない。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高等部生徒の授業参加の状況について調査をし、課題を見出すことができた。</li> <li>・新学習指導要領に対応した教育課程や指導形態の工夫を検討していく。</li> </ul>
カ	一人ひとりが責任をもった業務の遂行とセルフマネジメント力の向上	期限を意識し計画的に業務ができた教員100% 毎週水曜日18:00退庁の実施100%	教員アンケート90.6% 18:00退庁したと答えた教員100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文書提出日の期限や退庁時刻を提示することで時間の使い方を意識して計画的に業務を行うことができた。</li> <li>・学校組織として各分掌の配置人数や業務内容のバランスを考えたり、提出書類や資料等の精選を見直したりすることが必要である。</li> </ul>
		目的を見直して行事の実施や業務の遂行ができたと答える教員100%	教員アンケート100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何のための業務かを明確にしたことで、業務改善を意識するきっかけになった。</li> <li>・目的の見直しを通して行事や会議のあり方、もち方について考え精選していく。</li> </ul>